

～下田のデキゴト～



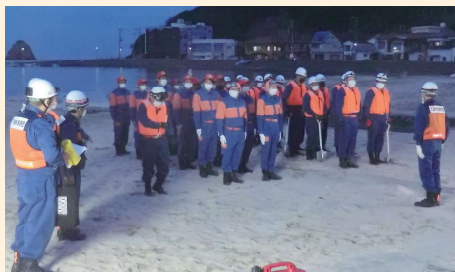
5/26 自主防災会連絡協議会総会

市民文化会館にて、自主防災会連絡協議会総会を開催しました。旧稲生沢中学校は9月末まで、旧下田東中学校と旧稲梓中学校は当面の間、避難所として利用が可能であること等を共有しました。



5/28～ 市内小学校運動会

市内複数の小学校で運動会が行われました。稲生沢小学校では、青空のもと一生懸命頑張る子どもたちの姿に保護者は大きな拍手で応援をし、笑顔あふれる運動会となりました。



6/1 地域の安全のための備え

下田市消防団第3分団と団本部、訓練指導員らが外浦海岸で水防訓練を行いました。水害の時期に備え、海岸の砂を利用し200個の土のうを手際良い作業によりあっという間に作り上げられました。



6/5 笑顔あふれるニュースポーツ

「ニュースポーツふれあいフェスタ」が道の駅で開催され、子どもから高齢者まで多くの方が「だれもが、いつでも、どこでも、気軽に自由に楽しめる」ニュースポーツを体験しました。



6/12 SUP & Paddleboard 選手権大会開催

6/11は弓ヶ浜、6/12は白浜大浜と外浦で、SUP & Paddleboard 選手権大会が開催されました。各種目で優勝した選手は、11月にプエルトリコで開催される世界選手権への出場権を獲得しました。



6/18,19 夏に向けて海をきれいに

入田浜、白浜大浜でビーチクリーンが行われ、地域の方や小・中学生を始め、市外からも多くの方が参加しました。下田の美しい海を、100年後、1000年後にも残していけるようみんなで守っていきましょう。

6月の できごと

1～30日 第51回あじさい祭
3日 グローカルCITYプロジェクト推進委員会
8～16日 市議会6月定例議会

15日 寿学塾
18日 わくわくパーク「かけっこ講座」
26日 全日本ライフセービング大会

地域子育て支援センター通信

問合せ先 地域子育て支援センター ☎2200



8月の予定

- 5日(金) ふれあい遊び
※午後閉館(清掃・消毒)
 - 8日(月) 8月生まれの誕生会
 - 15日(月) 閉館
 - 16日(火) 閉館
 - 22日(月) 発育測定・育児相談 9時～11時
保健師・栄養士来所
 - 26日(金) ふれあい遊び
プール遊び終了
※午後閉館(清掃・消毒)
- ※予定が変更になることもあります。
詳細は、支援センターまでお問い合わせください。



ふれあい遊び



体育館で遊ぼう

あちらこちらからセミの鳴き声が聞こえ、暑い季節がやってきました。熱中症予防のために室内でもこまめに水分補給を心がけ、戸外では帽子などで直射日光から身を守るようにしましょう。子育て支援センターでは、水遊びをしたり自然の風を感じたりしながら夏を楽しんでいきたいと思えます。休息、睡眠、そして夏バテしない食事に心がけ、元気に過ごしたいですね。どうぞ、お気軽に支援センターに遊びに来て下さいね。

水遊びのお知らせ



- ・水遊び期間 7月13日(水)～8月26日(金)
 - ・水遊びができる日
 - ・火曜日 0歳児 ・水曜日 1歳児
 - ・木曜日 2歳児 ・金曜日 兄弟連れ
- ※天候や行事等により実施しない日もあります。



誕生日会



パパママのふれあいタイム

こんにちは、市長です

「故郷」を考える

今回は、山田太一ドラマ「夏の故郷(昭和51年)」から。舞台は、岩手県の農村。親の跡を継いで農業をしている若者(たいてい長男)たちがいる。彼らには結婚のチャンスが減らない。これでは農業が立ち行かなくなると考えた町長や農業委員会の会長が教育長と相談して立ち上げる。ちょうどお盆の時期だったので、上京して働いている娘たちが帰省してくるからうまくマッチングして結婚させようとする物語です。

農業委員会の会長は佐野浅夫さんで、自分の娘(竹下景子さん)は農家に嫁がせたくないのだが、立场上そうも言えずに葛藤を抱えたまま若者たちを励ます、という微妙な役柄を見事に演じています。

この美しいドラマのシナリオを久しぶりに読み返して(本筋から若干外れますが)2点ほど注目しました。

一つ目は、地方の衰退や人口減少といった社会問題が昔からあったということ。東京

今回は、山田太一ドラマ「夏の故郷(昭和51年)」から。舞台は、岩手県の農村。親の跡を継いで農業をしている若者(たいてい長男)たちがいる。彼らには結婚のチャンスが減らない。これでは農業が立ち行かなくなると考えた町長や農業委員会の会長が教育長と相談して立ち上げる。ちょうどお盆の時期だったので、上京して働いている娘たちが帰省してくるからうまくマッチングして結婚させようとする物語です。

農業委員会の会長は佐野浅夫さんで、自分の娘(竹下景子さん)は農家に嫁がせたくないのだが、立场上そうも言えずに葛藤を抱えたまま若者たちを励ます、という微妙な役柄を見事に演じています。

この美しいドラマのシナリオを久しぶりに読み返して(本筋から若干外れますが)2点ほど注目しました。

一つ目は、地方の衰退や人口減少といった社会問題が昔からあったということ。東京

以前、自分の子どもについて故郷に戻ってきてほしいかというアンケートを親に実施したところ、苦しい親心が浮彫りになりました。自分たちの世代まででここで暮らしてきたが、子どもたちはもう帰らなくていい。彼らには彼らの夢を追いかけてほしい、というものでした。

そして、しばしば聞こえてきたのが「この町には働く場所がないし」というものでした。続きは来月号で。

は昔から若者たちを吸収してきたと改めて認識させられました。

二つ目は、とは言え当時はまだ、長男は「一家」から離れなかったということ。親も長男もそれをごく当たり前に認識し、疑問さえ感じずに生活していたということです。

ふり返って、令和4年の今はどうか。少子化で長男しかいない地方の家庭で、農家でも商店でもそれを子どもに継がせるなんてはなかなか考えていないという空気を私は感じるのです。

以前、自分の子どもについて故郷に戻ってきてほしいかというアンケートを親に実施したところ、苦しい親心が浮彫りになりました。自分たちの世代まででここで暮らしてきたが、子どもたちはもう帰らなくていい。彼らには彼らの夢を追いかけてほしい、というものでした。

そして、しばしば聞こえてきたのが「この町には働く場所がないし」というものでした。続きは来月号で。

